

JA三重厚生連は、医療・保健・福祉活動を通じて、組合員と地域住民の皆さまが、安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献していきます。

厚生連だより

Letter of JA Mie Koseiren

Vol. 84

2021. 1

「ハートの入り江」（かさらぎ池） 伊勢志摩国立公園内の鵜倉園地にある見江島展望台より眺めることができます



もくじ

新年のごあいさつ	2
増改築工事について	3
デジタルマンモグラフィシステム Pe・ru・ru LaPlus が導入されました	4
コロナ禍でのリハビリテーション医療 ／訪問リハビリテーション事業所	5
明るい笑顔と積極的なお声掛けでお迎えます ／デイケアセンター「コロナ対策」	6
認定看護師紹介	7
ヘルシー・減塩でも美味しく 心臓病食	8

CHECK!



JA三重厚生連の
取り組みを紹介!

新年のごあいさつ



経営管理委員会 会長 谷口 俊二

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな年をお迎えのことと存じ、心よりお慶び申し上げます。平素は厚生事業に深いご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

中国の武漢市に端を発した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に感染が拡大し、国内においても感染者数が増加しており、昨春には緊急事態宣言が発出されるに至りました。現在も第三波の真っ只中にあります。

このような中、J Aグループ三重は、令和3年3月に准組合員の事業利用規制の在り方検討期限が迫る中、不断の自己改革の実践とこれを支える持続可能な経営基盤の確立・強化と正准組合員との関係深化による組織基盤の強化に向けて取り組んでまいります。また、持続可能な社会の実現をめざしたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、事業活動に取り組んでまいります。

医療・福祉分野では、新型コロナウイルス禍において、全国の医療機関においては、帰国者・接触者外来の設置、感染患者の受入れ等を行っていますが、医療従事者は感染の脅威にさらされながら日夜奮闘しています。しかしながら、特に新型コロナウイルス感染症の治療を行っている医療機関においては、患者数の減少により非常に厳しい経営状況に陥っています。

本会においても、公的医療機関の使命を果たすため、新型コロナウイルス感染症の治療に積極的に取り組んでまいります。このような状況の中、J Aグループの一員として組合員及び地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせるよう、選ばれる病院づくりを目指し、役職員一丸となって邁進する所存でございます。今後ともなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。



代表理事 理事長 庄山 隆裕

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素は本会事業に対し、温かいご支援とご協力を賜りますこと厚く御礼申し上げます。

昨年1月以降、新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちの暮らしはこのウイルスとの対峙なしには語れない日々が続いています。「いつまで続くのだろう？」収束が見えない中で、誰しも漂う閉塞感を感じています。

職員の皆さんは、コロナ感染症への不安・脅威に晒されながら、その最前線で勤務しています。子供やお年寄りを抱えている職員は、家に帰らずホテルに泊まって出勤したこともありました。マスクが不足した時期は、節約しながらの勤務を余儀なくされ、学校の休校が決まった時には、家庭と仕事の両立に苦慮しながら勤務を続けました。偏見や差別があったようにも聞いています。

いろんな思いに押しつぶされそうになる中で、必死に踏ん張って働いていただいていることに心から感謝申し上げます。職員一人ひとりの使命感、責任感、職業意識の高さによって、地域医療を支えていることを誇りに思います。一刻も早くコロナ禍が去り、平穏な日常に戻ることを心から願います。

厚生連病院は、『地域に根ざした医療』、『地域を支える医療』、『地域が求める医療』を行うことが役割であり使命です。今は大変厳しい状況ですが、必ず収束の時が来ます。その時まで地域医療を守り、支えていくよう、役職員全員が“思いを一つ”にして、一緒に考え、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

一方 J Aグループでは、准組合員利用規制のあり方など、事業・組織の根幹にかかる厳しい問題に直面していますが、本年度においても「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、J Aグループの力を結集し、不断の自己改革を進めていかなければなりません。

時代の流れの中では、いろんなことが起こりますが、これまでもこうした難局を乗り越えてきました。私たちにはそうした力があると信じています。

本年も引き続き、理念『組合員や地域住民の皆様が安心して健やかに暮らせる地域づくりに貢献する』のもと、役職員一丸となって取り組むこととお誓いし新年のご挨拶とさせていただきます。

増改築工事について



当院は平成9年4月に現在地へ新築移転して以来、松阪市とその周辺地域の急性期・救急・専門医療を担う基幹病院としての役割を果たしてきました。移転から20年以上が経過し、生活習慣病の増加をはじめとする疾病構造の変化、医療技術の高度化等に伴い、地域から求められる医療ニーズは高度・多様化しています。

このような状況に対応するため、救急医療を中心とした地域ニーズへの対応と患者さまおよび職員満足度の向上を主眼に置いた増改築工事を計画し進行中です。



令和元年4月より実施設計を開始し、本年5月にリハビリテーションセンターを4階へ移設、8月に旧リハビリ棟の解体および起工式を経て、本格的に増築棟の建築に着手しています。

増築棟は令和3年秋に完成、その後本館の改修工事を行い、全ての工程が完了するのは、令和4年秋頃を予定しています。

また、増改築における当院の強みである救急部門の強化に伴い、松阪区域以南の救急医療の拠点として、さらなる受入体制の強化を図るとともに、県



下では5施設目となる救命救急センターの認可を最大の目標として設定し、今後は認可に向け、県をはじめとする関係機関への提案・働きかけに取り組んでいきます。

これからも、地域の皆様に信頼され、満足される病院を目指し、より一層の努力を続けてまいります。

増改築工事の進捗状況を当院ホームページに掲載し、随時更新しておりますので、どうぞご覧ください。

増改築工事の概要

増築棟			本館改修
階	部門名	主な強化点	主な改修点
5階	健康管理施設	受入人数の拡大、女性専用エリア新設	リハビリセンター移転・新設 アンジオ室新設 生理検査室拡充 7階クリーンルーム改修 各部門面談室新設 会議室・カンファレンス新設 当直・仮眠室拡充 等
4階	血液浄化センター	治療室環境の改善	
3階	高度急性期病棟	救急病棟 20床、集中治療室 6床	
2階	内視鏡センター	内視鏡室の増設、待合環境の改善	
1階	救急センター	初療室・診察室拡充、 感染症室・CT・X線撮影室新設	

松阪中央総合病院
事務部長 田畑 耕治

デジタルマンモグラフィシステム Per.ru.ru Lapius が導入されました
 ～より受診者に優しく質の高い検査をめざして～

三重北医療センターいなべ総合病院 画像診断部 橋本 麻希

令和2年9月、当院にキャノンメディカル社製デジタルマンモグラフィシステム Per.ru.ru Lapius が導入されました。

マンモグラフィ検査は乳がん発見のために、感度の高い検査の一つとして行われています。

撮影時は、乳房の中の乳腺を薄く広げ、圧迫をしながら行う検査です。多少の苦痛を伴う方もいらっしゃると思います。その受診者の苦痛を少しでも軽減できるような工夫がこの装置にはされています。

圧迫に関して圧迫圧に応じ圧迫速度を徐々に減速することができる「美圧」システムが搭載されています。圧迫スピードが変化することにより、受診者の様子を見ながら痛みを軽減と確かな乳腺の進展が可能になりました。

また撮影台の角部分には、丸みをおびた形状にすることで、腋窩や胸壁が触れるポジションでの痛みを軽減します。MLO撮影【※1】時に握りしめずに手が置けるアームレストは、受診者の肩や大胸筋に余計な力が入りにくく、上半身をゆったり装置に預けられ、リラックスできるものになっています。これまで使用していたCR型マンモグラフィ装置はカセットの入れ替え、読み取りにより撮影した画像を確認す

るまで時間がかかっていました。ですが、直接変換方式FPD【※2】になったことで画像確認までの時間が大幅に削減され、またX線を直接電気信号に変換するため解像力やコントラストがアップし、高画質の画像を提供することができるようになりました。これにより淡い陰影や病変の微細な石灰化も発見しやすくなりました。

乳がんは、早期発見・自己検診が一番重要です。今まで一度も乳がん検診を受けたことがない方、少しでも乳腺の異変に気付いた方はぜひ一度マンモグラフィ検査を受けてください。

【※1】MLO撮影 (内外斜方向撮影)

乳房に対して複数の方向 (MLO:内外斜位方向とCC:頭尾方向) から圧迫し撮影を行います。乳房を薄く伸ばすことで乳腺が広がり、腫瘍性病変がより鮮明に観察可能となります。

【※2】FPD (Flat Panel Detector)

体を透過したX線を直接デジタル信号に変換することでレントゲン写真を得る装置です。従来の撮影に比べ、低被ばくで高精細な撮影が可能となり、撮影後数秒で画像が表示され確認することができますので、検査効率が向上し患者さんの待ち時間を短縮することができます。



「コロナ禍でのリハビリテーション医療

鈴鹿中央総合病院 リハビリテーション科理学療法士主任 辻聡浩

SARS-CoV-2【※1】は社会全体に大きな影響を与え、医療提供体制にも変化をもたらしました。

当院のリハビリテーションは急性期を担い、幅広い疾患別リハを多様な環境で行っています。また必要な方には外来通院でのリハビリも実施しています。そのよつな中で患者さまとスタッフが非常に近い距離で、長時間接するリハビリでは、SARS-CoV-2感染予防対策の強化は必須です。当科としては従来からの標準予防策に加え、科の特異性を考慮した対策も実施しています。

COVID-19【※2】の流行が懸念され始めた時期から、標準予防策に対する意識を強化し、全国的な感染拡大が報告されるようになった頃にはE-PPE【※3】(サージカルマスク+手指衛生(手袋)+フェイスシールド)に切り替え、同時にスタッフを外来担当と入院担当に分けました。さらに入院担当は病棟担当制にして、病棟間の往来を制限し、

基本的には各病棟内でリハビリを行えるよう体制を整えました。その他、定期的な環境消毒と使用したベッドや器具はその都度アルコールで清拭消毒することを徹底しています。リハビリセンターは室内温度を管理して常に換気する



とともに、その使用についても午前は外来、午後は入院患者さまを中心に使用を区切って、「人・場所・時間」を分けた対策を実施しています。また、スタッフの体調管理も重要です。精神的ストレスや緊張を和らげる職場づくりにも努めます。

「With コロナ」としてもフェーズの変化とともに、より良質なリハビリ医療の提供につなげていくことは当然の課題です。患者さまの自主リハビリを強化する支援、IoTを活用したオンライン運動支援など、変化を取り入れることも必要かもしれません。今後の状況を注視し、患者さまには安心してリハビリを受けて頂けるよう、適切なリハビリテーション医療の提供に努めていきます。

- 【※1】 SARS-CoV-2：新型コロナウイルス
- 【※2】 COVID-19：新型コロナウイルス感染症
- 【※3】 E-PPE：Eye-Personal Protective Equipment

訪問リハビリテーション事業所

大台厚生病院 作業療法士 加太俊太郎

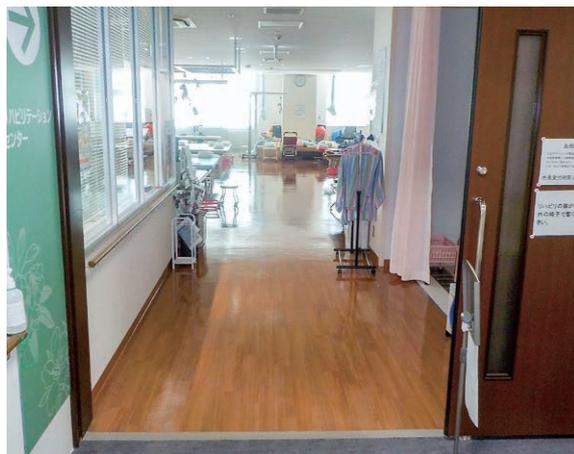
大台厚生病院訪問リハビリテーション事業所は平成11年に開設され訪問リハビリテーションのサービスが開始となりました。

当事業所の訪問リハビリテーション(以下訪問リハビリ)は月曜～金曜日の午後、作業療法士が行っております。訪問リハビリ対応地域は大台町・大紀町全域で、山間から海辺まで半径約50kmのサービスマ提供範囲となっております。この地域の特徴として過疎が進み高齢者が増え、超高齢者の独居世帯や老々介護でご苦労されている世帯が多く、やむなく施設入所を選択する方が増えてきています。

一方で地域包括ケアシステムにて「住み慣れた場所でその人らしく生活」することが提唱されています。訪問リハビリの移動距離が長く道中には家の田畑で農作業をされている方や、80歳を超えても山仕事に精をだす方など、生涯現役を地でいくつとしていらっしゃる方も多数見られます。

そんな中、COVID-19の流行と共に緊急事態宣言時には大台町でも地域福祉活動の制限となり、訪問リハビリも中止にしてほしいと言われる利用者もおられました。現在も感染は拡大しており、予断を許さない状況ですが、感染予防に撤し利用者の安全・安心を

守りながら、地元で生活することが出来るように、訪問リハビリを提供し「その人らしい生活」の手助けを提供していきたいと思っております。



明るい笑顔と積極的なお声掛けでお迎えします
～フロアコンシェルジュの導入について～

鈴鹿中央総合病院 医事課 事務次長補佐 西浦真

正面玄関での検温を終えてエントランスホールに入ると、緑と黒を基調とした制服に身を包んだ女性職員が数名…。彼女たちが今回ご紹介するフロアコンシェルジュです。令和2年10月、サマンサジャパン(株)に業務委託し導入する運びとなりました。

これまでも当院では、患者さまに安心して病院にかかっていたただけるよう接遇向上に取り組んでまいりました。今回、専門的にしっかりと教育された人材を配置することでさらにレベルアップを図るとともに、そのおもてなしの対応を職員が目の前で見て刺激を受けることにより意識向上に繋がればと思います。

導入から2ヶ月余り、来院される方を明るく笑顔と積極的なお声掛けでお迎えする姿も板についてきました。日々多くの患者さまから、「ありがとう」と感謝のお言葉をたくさん頂いております。また、彼女たちの言葉遣いや立ち振る舞いに「都会の病院みたいだ」「ホテルに来たみたいだな気分になる」等の感想も頂いております。

今回のコンシェルジュ導入を機に、全職員が当院の行動目標である「全職員が患者さまの窓口」「明るい笑顔とやさしい言葉で患者さまに接します」「患者さまの不安を取り除くよう努力



※感染予防のため、普段はマスクを着用しています

コンシェルジュの主な業務

- ・ 外来フロアのご案内・ラウンド
- ・ 紹介患者さまのご案内
- ・ 再来受付機、会計精算機のご案内及び補助
- ・ 来客対応等

します」をいま一度振り返り、コンシェルジュと共に「患者さまに選ばれる病院づくり」を目指してまいります。

デイケアセンター「コロナ対策」

鈴鹿厚生病院 作業療法士主任 岡村綾

昨年9月、当院で新型コロナウイルス感染症が発生し、感染拡大防止の観点からデイケアセンターは約2ヶ月間休止しました。その間、デイケア再開に向けて「ウイルスを持ち込まない・広げない」をモットーに、感染対策を踏まえた机や物の配置・プログラム実施方法・共有となる道具類の扱い方等、スタッフ全員で検討を重ねながら、デイケアの運営方法の見直しを行いました。

11月初旬より、利用者への個別面談を実施し、その後ショートケア・デイケア・ナイトケアと順次再開を進めています。再開当初は、ホール内の机やロッカー等の配置、利用方法・プログラム実施手順などが大きく変化しているため、利用者の戸惑いも多く見られましたが、少しずつ新しい様式に慣れてきています。今後感染対策を続けながら、利用者が安心して活動できるデイケアセンターを目指したいと思います。





大台厚生病院で感染管理認定看護師として活動させて頂いています奥山香です。平時は療養型病棟棟長との業務を行っています。

私の感染管理認定看護師としての使命は、大台厚生病院に関わる全ての方々に感染から守ることです。このコロナ禍で業務は多忙を極めました。が、とてもやりがいを感じています。日々変化する近隣の発生状況や新型コロナウイルス、感染対策等についての情報をいち早く入手、理解しその状況に合わせて臨機応変に対応できるように心がけています。

特に当院は地域性もあり高齢の入院患者さんが多く、新型コロナウイルスが蔓延してしまうと大変な状況になる事は誰もが認識しています。職員の体調管理や感染対策に対する意識付けを継続させる事の難しさを実感しつつも、常日頃から職員に向けて感染対策を啓発していくことが必要であると考えています。また、自施設のみが感染対策の充足を図ったとしても新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐことはできません。

そこで、第2波の到来頃から7回程近隣の介護施設職員などを対象とした出前講座やWeb講義をさせて頂いています。新型コロナウイルスの正しい知識の理解と平時からの標準予防策を徹底するためには、地域を巻き込んだ感染対策が必要です。地元のケーブルテレビでも手指衛生・咳エチケットなどを放映して頂き、住民の皆様にも顔を覚えて頂いています。

感染対策は全員の足並みが揃っていないければ意味のないものとなってしまいます。一人のエラーが感染の拡大を招きます。今後も自施設の枠にとらわれないことなく、地域からも必要とされる感染管理認定看護師でありたいと願っています。

大台厚生病院

感染管理認定看護師

奥山香



ヘルシー・減塩でも美味しく心臓病食

三重北医療センター 菟野厚生病院 管理栄養士 中谷 理恵

心臓病の原因は動脈硬化をはじめ、内臓脂肪の蓄積による肥満によつて、高血圧や高血糖状態も関係します。心臓病予防のための食事は、適正カロリー、低脂肪、糖質控えめ、減塩（1日6g未満）に気を付けながら、バランスよく摂取することが大切です。当院のある日の心臓病食を紹介します。

栄養量 1食1人分

エネルギー…595キロカロリー
たんぱく質…22.8g
脂質…15.3g
塩分…1.7g

◆ごはん…180g

◆鶏のつくね焼き

【材料】（1人分）

- 鶏ミンチ…60g
- 玉ねぎ…40g
- 大葉…1/2枚
- 卵…6g
- パン粉…3g
- 塩…0.1g
- 油…3g
- 蒲焼のたれ…7g
- ピーマン（三色）…30g
- しょうゆ…0.5g

①ボールに鶏ひき肉、みじん切りにした玉ねぎと大葉、卵、パン粉、塩を入れて粘りが出るまでこねる。

②①を成形し、フライパンに油をひき両面に焼き色がつくまで焼く。

③表面に蒲焼のたれを塗り絡める。
④ピーマン（三色）は細切りにし、ボイルしてしょうゆを混ぜ合わせる。

⑤鶏つくねとピーマンを器に盛りつける。

★表面にたれを塗ることで、少量の調味料でもしっかりと味を感じることが出来ます。

◆冬瓜の煮物

【材料】（1人分）

- 冬瓜…90g
- 人参…20g
- 油揚げ…5g
- しょうゆ…3g
- 砂糖…1g
- みりん…1g
- だし汁…適量

作り方

①冬瓜、人参を乱切りにする。油揚げは細切りにし、熱湯をかけ油抜きする。

②鍋にだし汁、冬瓜、人参を入れ柔らかくなるまで煮る。しょうゆ、砂糖、みりんを入れて味付けし、油揚げを入れて味がしみ込むまで煮る。

③②を器に盛りつける。
★だしをしつかり効かせることで素材の旨味も引き立ちます。

◆カリフラワーとブロッコリーのサラダ

【材料】（1人分）

- カリフラワー…40g
- ブロッコリー…40g
- かにかま…10g
- ノンオイルサウザンドレッシング…10g

作り方

①カリフラワー、ブロッコリーを食べやすい大きさにカットし茹で、水気をきる。かにかまはほぐす。

②カリフラワー、ブロッコリー、かにかまをボールに入れ、ドレッシングで和え、器に盛りつける。
★ノンオイルドレッシングを使用することで、カロリー、塩分を押しさえることが出来ます。



JA三重厚生連

人に 地域に やさしい看護

薬剤師

看護師

介護福祉士

看護補助員

募集



厚生連だより Vol.84

発行／三重県津市栄町1丁目960番地

三重県厚生農業協同組合連合会

TEL 059-229-9191 FAX 059-224-4354
http://www.miekosei.or.jp/ E-mail:info@miekosei.or.jp



自然保護のため、石油系成分の少ない植物油性インキを使用しています。